

実施クラス				実施日				実施保育者名	
5	歳児	ひまわり	組	7	月	1	日	(火)	埴 未彩朋

● 実施計画

活動テーマ
サイエンス ～光～ 光と影の探検ごっこ
活動テーマに関する 日頃の興味関心について

外にできる影にも少しずつ興味が出ており、ロールカーテンに光を当てて遊ぶ影遊びにも強く興味を示していた。

活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
----------	------------

時間	内容	
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「影ができるためには何が必要なのかな？」 「影ができるのは外だけかな？」 「どんな時に影って見えるかな？」と問いかける。 ・ 「電気を消したら光は無くなるのかな？」 「暗くなったら影はどうなるのかな？」 「どうしてそう思ったのかな？」と保育室を暗くしたら影はどうなるか調べてみよう提案する。 ・ 「影は見えるかな？」等と問いかけ、光がないと影はどうなるかを一緒に確認していく。 ・ 電気をつけ、「暗くなったら影はどうなったかな？」 「何色に見えたかな？」と気づいた事を話せる場を設け「どうして影が見えなくなったのかな？」と問いを投げかける。 ・ 保育室を暗くして、懐中電灯を使って照らしながら探検をしてみる。「さっき影が無くなった場所に光を当てるとどうなったかな？」 「影はどうなっているのかな？」 「光はどうなっているかな？」と問いかけ、光と影の様子を観察できるようにする。 ・ 子どもたちをロールカーテンの前に立たせ、保育者が懐中電灯を使い上から当ててみたり、下から光を当ててみることで、影にも変化が起きなぜ影の大きさが変わるのかを考え、実際に懐中電灯を使い実験した。 ・ 振り返りとして、影ができるには何が必要なのかを改めて考えそれぞれ挙手をして発表していった。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの手に持った際に危険な箇所がないか確認しておく。 ・ 暗い環境が苦手な子がいないか等を把握しておく。 ・ 暗転した保育室で災害が発生した場合でも、瞬時に対応ができるよう、避難経路の確保と備品の確認をしておく。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 懐中電灯 ・ 影や反射ができる物品 ・ ホワイトボード、マーカー <p>■参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽とライトから光が直進する図解 ・ 光の反射の図解 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究活動に使用する用具（懐中電灯、鏡など） 使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・ わかりやすいイラストや写真を選定する。

●実施報告	
探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段感じている光と影について、改めて探究的な視点で見るときっかけを作る。 ・ 光と影の性質に体験を通して気づき、試行錯誤する中で「不思議だな」「なぜそうなるのかな」という疑問をもつことで、探究することの面白さを感じられるようにする。 ・ これから深めていく光と影の関係性や、反射や屈折などの光の性質についてを探検を通して気づいていく。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「影が前にある時と後ろにある時があったよ」「男の子と女の子で影の位置は変わるのかな?」「影を作るには光が必要なんだね」、「光の当て方で影が変わるね」、などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に考える事を大切に、子供達が楽しんで活動に取り組めるようにしていき、子どもたちが考える機会を増やした。子どもの驚きや発見を丁寧に拾って展開させ、探究の幅を広げる手助けをした。

●振り返り	
保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちは、反射などよりも部屋を暗くした普段と違う保育室環境に興奮し影ができる不思議さに興味を示していたので、そちらの方で活動が広がるようにすることで影遊びの面白さを感じていた。 ・ 影の方向や影の色の濃さなど、大人からすると当たり前なことでも子どもたちにとってはとても不思議な感覚なようで長い時間集中して影遊びを行っていた。 ・ 影が光があるからできることにも気がつき、夜でも影がみえるのは月の明かりがあるからだと思いついた子どもたちは、なぜ月や星があんなにも明るいのかも疑問を持つ姿が見られ、1つのものを探求していくと、その先にもまだまだ気がなることができてるのだと感じた。 	<p>子どもたちが十分に考えることのできる問いかけや、活動の流れであった。</p> <p>しかし、子どもの声を拾うことに集中し、探求していくことができなかったことが残念である。</p> <p>子どもたちに気づきと新たな発見へと繋げていくことを期待する。</p>

実施クラス				実施日			実施保育者名	
5	歳児	ひまわり	組	9	月	30	日 (火)	埴 未彩朋

● 実施計画

活動テーマ

やさいの重さ

活動テーマに関する 日頃の興味関心について

普段から食べ慣れている野菜だが、野菜が苦手な子もいるが多くの子は給食もよく食べ食べ残しは少ない。前日の買い物でより実験への期待感が高まっているようだった。

活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
----------	------------

時間	内容	環境設定 ・ 準備物
10:00~10:05	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の探究活動で何を行ったのかを思い出せるような声掛けを行ったり、昨日買い出しに行った野菜を思い出せるような声かけを行い本日の活動に繋げていく。 ・ 実際に野菜を触ってみて、五感で感じたことを話し合ったり、子ども達同士で相談し合いながら重さを決める。 ・ 実際に水を用意し、野菜を水の中に入れたらどうなるのかを予想させる。 ・ 浮くもの沈むものの予想を挙手で発表し合い、なぜそう考えたのかも一緒に発表する。 ・ 実際に1つずつ野菜を水の中に入れる。 ・ 浮く野菜沈む野菜には何か共通点があるのかを考える。 ・ この野菜たちをこの後どうするか聞くと、切ってみたいとの声が上がったため、切る前に野菜の中身は何色なのかを予想させてから子どもの目の前で切った。 ・ 半分や1/4に切った野菜を子どもの近くへ置き、触ったり匂いを嗅いだり切る前との変化を感じられるようにしながら虫眼鏡を使い観察する。 	<p>【環境設定】 子ども達が見えやすいように水に浮かぶ実験は前の1つの机で行い、その後の観察の時間は2つずつ用意し子ども達が順番で観察できるようにする。</p> <p>【準備物】 水槽、野菜（にんじん、冬瓜、なす、レンコン）、虫眼鏡、包丁、まな板</p> <p>【事前準備】 水槽に水を溜めておき、すぐに実験に移れるようにしておく。 ・ 包丁などの危険なものは子どもの手の届かないところに置いておく。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・観察後は自分たちで買い出した野菜を野菜カードに描く。 ・水に浮いた野菜沈んだ野菜はそれぞれどれだったか、野菜の触った感覚などの振り返りを行う。 ・観察後の野菜は室内に置いておき、野菜の変化を観察できるようにしておく。
--	---

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・先に地上での野菜の重さ比べをし、重い順に並べた後重いものは水に沈むのかなど水に浮く沈むの予想を立ててから、実際に水に入れると、予想と違う子供はとても驚いた表情を見せていた。 ・保育者が包丁できる際には、硬さなどを言葉や表情で伝えたり、子どもたちで中の色を予想しながら目の前で切り観察を行った。 ・五感を使って観察ができるよう十分な数を用意ししっかり時間をかけて観察を行った。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬瓜が浮くと「うわぁ！すごい！浮いたよ！」と驚いた表情をしていた。 ・野菜を触り比べ「ここは柔らかいけどこっちは硬い！」「ちょっとメロンの匂いがする」「種がスイカの形と似てるかも」「少しずつ黒くなってきた」「これが種かな？」 <p>【保育者との関わり】</p> <p>子ども達にさまざまな場面で予想をさせた。また予想と結果が違う時には「なんでだろう？」と一緒に考えて子どもの探究が深まるように促していった。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・実験の前日に買いに行き、子どもの興味が新鮮なうちに行くことでより興味深く取り組むことができたと感じた。 ・いろんな場面で子どもそれぞれに予想をさせ発表する機会を作ること、自分で考えを外に発信する力が以前よりついてきたと感じる。 ・普段から食べている野菜のほかになかなか見ることのない野菜を取り入れたことで、中の色を予想するときや触る時に、より興味を持っていたと感じる。 ・絵を描く際にはよく観察して描いている子の絵を褒めることで、他児の観察する力をより引き出せたと感じる。 	<p>自分たちで、野菜を選んでからスーパーに向かったことで、子どもたち自身がい</p> <p>しっかりと目的を理解することができていた。</p> <p>スーパーの野菜売り場では、様々な野菜を見て、「どの季節のものなのか」「何という種類なのか」と、別の視点の広がりも見えた為、次回以降への繋がりとなることを期待する。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 ひまわり 組	12 月 17 日 (水)	樋口

● 実施計画

活動テーマ		
アート～ふしぎな絵～ 目の錯覚		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
色や形の違いに気づいて「どうしてこう見えるの?」「混ぜたら何色になるの?」と疑問をもつ姿がある。遊びの中でもブロックや積み木を並べながら模様の変化を楽しみ、見え方の違いに興味を示している。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・トリックアートの絵を見せ、「どう見える?」と問いかけ、興味を引き出す。 ・上下左右に動かす、顔を近づけたり遠ざけたりするなど、視点を変えて観察できるようにする。 	【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが見やすい位置にホワイトボードを設置する。 ・子どもたちが作業できるように机のスペースを確保する。 ・絵の細部が確認できるように、画像を大きく印刷する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。 【準備物】 <ul style="list-style-type: none"> ○トリックアートの絵 ・線が曲がって見える ・丸が見える ・丸が点滅する ・平行に見えない線 ・真ん中にたどり着けない渦巻 ・揺れて見える ・回って見える など11枚の絵 ○長さが違って見える(ホワイトボード用) ・色画用紙の短冊2枚(八つ切り画用紙の短辺×20mm) ・色画用紙の短冊4枚(10mm×20mm) ・マグネットシート(色画用紙の短冊の裏に貼るためのもの) ・ホワイトボード ○赤い丸、どっちが大きい?(ホワイトボード用) ・70mmの赤い丸2枚 ・120mmのグレーの丸6枚 ・20mmのグレーの丸11枚 ・マグネットシート(色画用紙の丸の裏に貼るためのもの) ○大きさ比べ(作業用) ・大きさ比べの紙:扇型(画用紙) ・ハサミ
10:45～11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・「どちらが長い?」、「どちらが大きい?」の課題を提示し、実際と見え方の違いを考える機会を作る。 ・ホワイトボードを使い、色画用紙の短冊や丸を使って大きさや長さの錯覚を確認する。 ・「本当にそうかな?比べてみよう!」と問いかけ、子どもたちに検証してもらうようにする。 ・「どちらが大きい?自分で作って比べてみよう」と伝え、子ども自身で作業できる機会を作る。 ・配布した紙を切り取り、実際に比べることで錯覚の仕組みを体験する。 	
11:00～11:15	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてこんなふうに見えたのかな?」と問いかけ、考える機会を作り、意見を共有する。 ・「どう見えた?本当はどうだった?」と問いかけ、発見したことを振り返る。 ・実際に体験した錯覚について、子どもたち同士と感想を伝え合う。 ・見え方が変わる絵を自分たちで作ってみよう」と話しあい、期待が膨らむように声を掛ける。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>目の錯覚を利用したトリックアートを体験し、視覚の不思議を感じ取った。 導入では、さまざまな錯覚の絵を観察し、視点を変えることで見え方が異なることを確認した。 その後、大きさや長さの錯覚をホワイトボード上で検証し、最終的には自分たちで実験を行いながら理解を深めた。</p>	<p>【子どもの姿・声】 ・なぜそう見えるのか「同じ長さに見えないのに、どうして一緒なんだろう」と疑問を持ちながら活動に取り組んでいた。 ・「こっちからみたらどうなるのかな」と疑問を持つ姿があり遠ざかって見たりしゃがんでみたり斜めから見たりする子どもの姿があった。 ・実際に自分で切った物を比べる際も各グループ内で「置き方を変えると長さが変わって見えるね」と話を膨らませている児が見られた。 【保育者との関わり】 ・「なぜ?」「どうして」を子どもたちに聞き考えられるようにしていった。 ・言葉で伝える事だけではなく、実際前に出て磁石を重ねて同じ長さだね。と発表しみんなで気付きを深められるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・トリックアート、錯覚に対して強い興味を示す児が多く見られ、子どもたち自身もその不思議さに魅了されていた為、なぜ?というところに着目して考える時間を多く作り深められるようにした。 ・子どもからの発言に注目しつつ、保育者からの発信ではなく子どもが予想を立てて試してみるを意識することで子どもたちもやってみたい、こうだと思おうという考え方で活動に取り組めるようにした。 ・実際にやってみようの際には、個人ではなく同じグループ内で意見を出し合っって次回の予習へと繋げた。 その後は、トリックアートの図鑑を子どもたちが手に取れるところに置いて、引き続き探求できるようにしたり、異なるトリックアートや錯覚に触れられるよう環境にも配慮した。</p>	<p>「見る、考える、言同ベる、発言してみる」など 様々な重なりと工夫のある活動であった。 子どもたちの「どうして?」という疑問を 上手に引き出し、一糸着きに考えながら 進めることで、興味の高まりを感じた。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 ひまわり 組	2 月 20 日 (金)	埴 未彩朋

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねってなんだろう～ お金ってどんな形？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>前回の物々交換体験を通じて、お金が「物を交換するための便利な道具」であることを理解した。日頃の生活の中で見かける日本のお金について、その形やデザイン、色など、具体的な特徴に好奇心が向いている。</p>		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:05	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、物々交換がうまくいかなかった理由とお金の利便性を再確認する。 ・お金はどんな形、色、模様かを考えてみる。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切に
10:05～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のお金を観察することを伝える。模擬貨幣がおもちゃであることを明確に伝える。 ・グループごとに模擬貨幣を配り、自由に観察する(色、形、数字、絵、質感、重さなど)。 ・観察して気づいたことを発表し、友達の意見も共有する。 ・自分だけの(またはクラスだけの)オリジナルのお金について、形や値段、絵などを考え、デザインする。 	<p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬貨幣(紙幣、硬貨) ・画用紙(白、八つ切り、1枚/人) ・筆記用具(色えんぴつ、クレヨンなど) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬貨幣をクラス人数分以上用意しておく。 ・デザインのヒントになる図鑑等を用意しておく。
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・描いたお金について発表し、友達の作品の素敵な点も共有する。 ・次回、このお金で「お店屋さんごっこ」をして買い物体験をすることを伝え、期待につなげる。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、前回の活動を振り返り、お金が交換に便利な道具であることを確認した後、実際のお金がどんな形、色、模様かについて考えた。</p> <p>・展開では、グループごとに模擬貨幣を観察し、紙幣の大きさの違いや硬貨の数字、描かれている絵など、多様な視点で気づきを発表した。その後、もし自分たちで新しいお金を作るなら、どんな形、値段、絵にしたかを考え、ホワイトボードに意見をまとめた。そのアイデアを基に、画用紙に自由な発想でオリジナルのお金を描く活動を行った。</p> <p>・まとめでは、完成したオリジナルのお金についてなぜそのデザインにしたのか、何が買えるのかなど発表し、オリジナルデザインを見て素敵などころを伝え合った。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬貨幣の観察で、ただ数字を見るだけでなく、「これは穴が空いている」「お札には人の絵、波が描いてある」など、視覚、触覚、聴覚を使った多様な気づきが見られた。 ・オリジナルのお金を考える際には、「恐竜が好きだから恐竜を描く」「なんでも買えるようにゼロたくさんつける！」「本物には透かしがあったから、それを描いてみる！」などオリジナルデザインを描いていた。 ・発表では、「どうしてこの絵にしたの？」「このお金で何が買えるの？」といった質問する姿や、具体的な使い方をイメージして説明する様子も見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「正しい答え」を教えるのではなく、子どもたちが自ら気づきを発見できるように援助し、正解や不正解にとられず、一人ひとりの小さな気づきも受け止め、承認した。 ・オリジナルのお金を描く活動では、現実のお金にとられず、子どもたちの自由な発想を尊重するよう配慮した。 ・発表時、質問や問いかけを通して発表内容が具体的になるように援助し、友達の作品で気づいた点を認めていくことを意識した。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<p>・普段お金という物を目にする機会が少ないようで、百万円のお金があるという子どもの姿があった。実際にお金という日常に存在する道具を改めてじっくりと観察することで、子どもたちは色や形、描かれている絵、透かしなどにも関心を広げている様子が見られた。</p> <p>・自分だけのオリジナルのお金を描く時では、先にお金というものを見ていたからか、形などにはとらわれていたものの、自分たちの好きな絵などを描いて作っていた。</p> <p>・異なった意見や気づきを共有し、お互いの発想の違いを認め合う(素敵だなど思ったことも共有する)プロセスを通して、社会性と協調性を育むことができたと感じた。</p>	<p>・「見難い内容であると感じていたが」、導入を上手く行い、面白い内容として進めている印象である。</p> <p>・クレジット払いやバーコード決済が主流となっている最近の状況との比較等も楽しいのではないかと。</p>